

令和3年度「しがはいすくーるおすすめ本50選」優秀作品一覧

優秀作品50編

応募総数3,381編（応募校数21校）

（著者名の50音順に並んでいます）

（氏名の有無は本人の希望によります）

No	書名	著者名	紹介者	学校名	学年
1	medium (メディウム) 霊媒探偵 城塚翡翠	相沢 沙呼	堀内 陽菜	国際情報高校	2
2	雨の降る日は学校に行かない	相沢 沙呼	三宅 梨香	大津高校	3
3	赤ずきん、旅の途中で死体と出会う	青柳 碧人	武田 夢咲	国際情報高校	2
4	木曜日にはココアを	青山 美智子	井上 苺香	八幡商業高校	1
5	命の後で咲いた花	綾崎 隼 著/ ワカマツ カオリ イラスト	岡本 宙	安曇川高校	2
6	死にたがりの君に贈る物語	綾崎 隼 著/orie イラスト	赤松 緩奈	国際情報高校	2
7	シャイロックの子供たち	池井戸 潤	谷内 大和	守山高校	2
8	推し、燃ゆ	宇佐見 りん	山崎 静良	虎姫高校	1
9	昔話法廷	NHK Eテレ「昔話法廷」制作班 編/ 今井 雅子 原作/イマセン 法律 監修/伊野 孝行 挿絵		MIHO美学院 中等教育学校	1
10	いのちはなぜ大切なのか	小澤 竹俊	高岡 美羽	草津高校	3
11	最後は会ってさよならをしよう	神田 濤	濱野 妃那	能登川高校	1
12	嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え	岸見 一郎/古賀 史健	森 美結乃	国際情報高校	1
13	みんな蛭を殺したかった	木爾 チレン	伊藤 来未	米原高校	1
14	+1cm たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える	キム・ウンジュ 文/築田 順子 訳	西田 梨乃	草津高校	3
15	だめなら逃げてみる 自分を休める225の言葉	小池 一夫		米原高校	1
16	本当は怖い日本の神話	古代ミステリー研究会 編	田谷 彩音	米原高校	2
17	ディズニー式 サービスの教え	小松田 勝		MIHO美学院 中等教育学校	2
18	塀の中の美容室	桜井 美奈	長田 莉実	玉川高校	1
19	君は月夜に光り輝く	佐野 徹夜	塚本 るる	国際情報高校	1
20	一度死んでみた	澤本 嘉光/鹿目 けい子	児玉 翔琉	米原高校	2
21	星の王子さま	サン＝テグジュペリ 著/ 河野 万里子 訳	馬場 せつの	国際情報高校	1
22	青い鳥	重松 清	太田 衣登葉	守山高校	1
23	すべての神様の十月	小路 幸也	川畑 千優	長浜北星高校	2
24	また、同じ夢を見ていた	住野 よる	宮崎 奏良	国際情報高校	2
25	君の臍臓をたべたい	住野 よる	真田 俊介	守山高校	2
26	よるのばけもの	住野 よる	神田 大渡	東大津高校	2
27	人間失格	太宰 治	野崎 晃大	虎姫高校	1
28	女生徒	太宰 治		大津高校	3
29	ツナグ	辻村 深月	西村 美優	国際情報高校	2
30	目を見て話せない	似鳥 鶏		米原高校	2
31	あやうく一生懸命生きるところだった	ハ・ワン 著/岡崎 暢子 訳	藤本 さつき	長浜北星高校	3
32	あの夏の正解	早見 和真	高岸 あのん	草津高校	2
33	それぞれの名前	春間 美幸	西野 美裕	米原高校	1
34	パラドックス13	東野 圭吾	田中 美優	虎姫高校	1
35	マスカレード・ホテル	東野 圭吾	木下 翔悟	米原高校	2
36	人魚の眠る家	東野 圭吾	黒田 結衣	守山高校	1
37	ラプラスの魔女	東野 圭吾	新原 菜摘	守山高校	2
38	生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉	日野原 重明	上田 萌心	米原高校	1
39	魔女の家 エレンの日記	ふみー 原作/影崎 由那 作画		湖南農業高校	2
40	老人と海	ハミングウェイ	中川 唄	虎姫高校	1
41	ポッコちゃん	星 新一	廣畑 亮太	虎姫高校	1
42	竜とそばかすの姫	細田 守		大津高校	1
43	AIに心は宿るのか	松原 仁	奥野 創大	守山高校	1
44	15歳のテロリスト	松村 涼哉	桑本 愛紅	大津高校	1
45	銀河鉄道の夜	宮沢 賢治	三田 真羽音	国際情報高校	1
46	余命3000文字	村崎 掲諦	伊藤 莉子	米原高校	1
47	フェリックスとゼルダ	モーリス・グライツマン 著/ 原田 勝 訳	竹井 七葉	国際情報高校	1
48	カラフル	森 絵都	岡本 颯斗	近江兄弟社高校	2
49	友達ゼロで不登校だった僕が世界一ハッピーな高校生になれたわけ	よしあき	大野 心愛	国際情報高校	1
50	ナナメの夕暮れ	若林 正恭	浦田 竣也	国際情報高校	2



令和3年度 「しがはいすくーるおすすめ本50選」優秀作品

(著者名の50音順に並んでいます)
(氏名の有無は本人の希望によります)

1 『medium (メディウム) 霊媒探偵 城塚翡翠』

相沢 沙呼 著 講談社

推理小説家であり難事件も解決する香月史朗と、霊媒師である城塚翡翠が出会い、事件を解決していくミステリー小説。この本は、1つの事件の内容は軽く、私でも理解できるのだが、最後の最後でどんでん返しを受ける。帯には「すべてが、伏線。」とあるように、今までのものが全て崩れていく内容だ。綺麗な文章で読みやすく、続編も発売している。ミステリーが苦手であっても大丈夫なので、ぜひ手に取ってみてほしい。

(国際情報高校2年 堀内 陽菜さん)

2 『雨の降る日は学校に行かない』 相沢 沙呼 著 集英社

この本は、教室の中にうまく自分の居場所を見つけられず、学校生活に息苦しさを覚えている女の子たちの、6つの物語です。短編集になっていて、どの話も女の子が主人公です。女子特有の感覚がすごくよく描かれていて、共感するところが多いです。読んでいてとても心苦しくなることもあるけれど、「すごいな」「えらいな」や「頑張れ」と応援したくなります。一緒に寄り添って読むことができる素敵な本です。

(大津高校3年 三宅 梨香さん)

3 『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う』 青柳 碧人 著 双葉社

書名の通り、主人公の赤ずきんの旅の途中で殺人事件が起こるストーリー。物語の中の登場人物は、誰もが知っている童話の人気者、シンデレラやヘンゼルとグレーテルなどさまざま!次々に起こる殺人事件と、事件を解決するための決めゼリフ「あなたの犯罪計画は、どうしてそんなに杜撰なの?」から繰り広げられる赤ずきんの見事な推理ショー!!人気童話×ミステリーの異色推理小説!全5章大どんでん返しの結末も!ぜひ読んでみてください!

(国際情報高校2年 武田 夢咲さん)

4 『木曜日にはココアを』 青山 美智子 著 宝島社

ひとつのカフェでの出来事からはじまり、小さな物語が繋がっていく温かい気持ちになれる一冊。日常の中で起こる些細なことが人と人をつなぎつけていく、共感できる、寄り添ってくれる本です。表紙・裏表紙に登場している人物は物語に登場しているので、それを知った上で読むと違った目線で読むことができ、面白いです。最後の場面までほっこりできるので注目の一冊です。

(八幡商業高校1年 井上 苺香さん)



5 『命の後に咲いた花』 綾崎 隼 著／ワカマツ カオリ イラスト

KADOKAWA／メディアワークス文庫

この本は、二人の主人公、榛名なずなと羽宮透弥が、ある理由のため大学の教育学部で教師を目指す物語だ。これと題名の関係は初めは謎でしかないが、読み進めていくと、とても納得したような気持ちになる。また、この物語のジャンルは恋愛小説であるが、ミステリー要素も含んでいるので、女性から男性にもおすすめできる一冊だ。読み終えた時には受け継がれていく夢にとっても感動し、やるせない気持ちになるので、是非とも読んでほしいと思う。

(安曇川高校2年 岡本 宙さん)

6 『死にたがりの君に贈る物語』 綾崎 隼 著／orie イラスト ポプラ社

この本は、SNSが発達し、生活の一部となっている今だからこそ、読む人全てが考えさせられる、そんな本です。熱狂的なファンを持つ小説家、ミマサカリオリの作品の完結を目前にして入った訃報により、完結を楽しみにしていたファンが集まり、物語を模倣していくお話です。予想しながら読んでも毎回予想とはかけ離れた展開で、最後までおもしろい本です。「あなたじゃなきゃ駄目なんだよ」という本の最後の一行にとっても心が惹かれました。

(国際情報高校2年 赤松 緩奈さん)

7 『シャイロックの子供たち』 池井戸 潤 著 文藝春秋

ある銀行で、不可解で様々な事件が起こる様子を、10話構成で、登場人物1人1人の視点から書かれた作品。作者が元銀行員ということで、読み手にリアルさと臨場感がとても伝わってくる。登場人物1人1人に人間味があるとても良い作品。この本の見所は、人間が持っている良くない部分が表れ、親近感がわく所だ。読みやすい構成なのでとてもおすすめだ。

(守山高校2年 谷内 大和さん)

8 『推し、燃ゆ』 宇佐見 りん 著 河出書房新社

「推ししか勝たん」そんな言葉をよく耳にする。私は「推し」がいる人にぜひこの本を読んでほしいと思っている。この本は突然、主人公の推しが炎上するところから話が始まる。それでも推しを推し続ける主人公の感情や行動が、文字だけなのに手にとるように伝わってくる。この本でしか味わえないリアルな描写に引き込まれること間違いなしの作品だ。主人公にとって、あなたにとって、「推し」とはいったい何だろうか？

(虎姫高校1年 山崎 静良さん)

9 『昔話法廷』 NHK Eテレ「昔話法廷」制作班 編／今井 雅子 原作／

イマセン 法律監修／伊野 孝行 挿絵 金の星社

皆さんは、昔話に疑問を感じたことはありませんか。『三匹のこぶた』の狼は、ぶたの兄弟の家を吹き飛ばしますが、その後、こぶたたちに殺されて食べられてしまいます。彼らは自分の身を守るためとはいえ、現実に置き換えると、“殺害”になってしまうのではないのでしょうか。昔話から読みとれる深い意味は、考えだすとキリがありません。この本は、昔話の曖昧な部分を法で裁くユニークな本です。

(MIHO 美学院中等教育学校1年)



10 『いのちはなぜ大切なのか』 小澤 竹俊 著

筑摩書房(ちくまプリマー新書)

「いのちはなぜ大切なの?」と問われたとき、あなたならどう答えますか? この本は、ホスピスという終末期医療に携わる医師によって書かれた本です。命の在り方は様々で、それを踏まえた上で、この問いの答えはあるのだろうかと一緒に考えることができる作品です。また、文中の「思春期は自己を見つめる大事な時期」と書かれている部分のように、悩みにそっと寄りそい、自分という存在の大切さにも気づかされる、そんな心に染みる一冊です。

(草津高校3年 高岡 美羽さん)

11 『最後は会ってさよならをしよう』 神田 澪 著

KADOKAWA

この本は1ページに1つの物語の短編小説集です。しかも1ページ140字でできています。なのにクスッと笑えたり、切なくなったりととても心に響く小説です。小説を読むのが苦手な人や忙しい人でも簡単に読める手軽さです。ぜひ読んでほしい小説です。

(能登川高校1年 濱野 妃那さん)

12 『嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見 一郎/古賀 史健 著 ダイヤモンド社

アドラー心理学を元に書かれた本です。心理学と聞くと哲学的で難しいと感じる方も多いでしょう。ですが、この本は悩みを抱えた青年と哲人の会話形式になっているのでとても読みやすいです。この本の中で印象に残っているのは「自由とは他者から嫌われることである」という言葉です。嫌われまいと生きることは不自由なことだと気付かされました。他にも対人関係の悩みについて分かりやすくまとめられています。ぜひ読んでみてください。

(国際情報高校1年 森 美結乃さん)

13 『みんな蛍を殺したかった』 木爾 千レン 著 二見書房

「私も、オタクだから」東京から転校してきた美少女、七瀬蛍は、京都の女子校で3人のオタク女子にそう告げる。だんだんと親睦を深め、永遠の親友とも呼べる仲に。しかし、誕生日に蛍は自殺をする。登場人物の感情が生々しく表現されていて、人間の欲望が詰め込まれたような作品でした。また、後半からの蛍視点は、前半の答え合わせのような感覚で、読むのが楽しく、明かされる3人の本心、蛍の過去や想いが、予想を越えていて印象的でした。

(米原高校1年 伊藤 来未さん)



14 『+1cm たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える』

キム・ウンジュ 文／築田 順子 訳 文響社

「たった1cm見方を変えるだけで世界は180度変わる。」という信念を元に書かれた、ベストセラーになった一冊です。私達が生活している中で出てくる、仕事や人付き合い、恋愛など、様々な悩みや考え方をがらりと変えてくれる、とてもポジティブな本です。この本に出会ってから、嫌な事が起こるのは自分がマイナスな想像をしているからなのだと気づく事が出来ました。今、特に悩みが無い人も、新しい発見があると思うので、ぜひ読んでください。

(草津高校3年 西田 梨乃さん)

15 『だめなら逃げてみる 自分を休める225の言葉』

小池 一夫 著 ポプラ社

この本は、本屋に入ってたまたま見つけた本でした。この本を読んで私は、人生がいきなりに楽になった気がします。時には逃げ出してみる。時には頑張ることを休んでみる。時には忘れてみる。最初は、「甘え」だと捉えていましたが、読み進めていくことで理解しました。うまくいかない時どうしたらいいのか、「正しい方向へ一歩進むための休息をとる。」この考え方が、この本に書かれています。特に悩み事がある人は、一度手に取ってほしいです。

(米原高校1年)



16 『本当は怖い日本の神話』 古代ミステリー研究会 編 彩図社

私が紹介する『本当は怖い日本の神話』という本は、アマテラスやイザナミ・イザナギなど、誰もが一度は聞いたことがある日本の神話に出てくる人物や出来事の裏側を書いた本です。誰もが一度は聞いたことがある人物や名所がこの本にはたくさん出てくるので、現実味があり、小説などのフィクションの作品が苦手な私でも、一度読んだだけで理解することができました。本が大好きな人より、どんな本を読んでも飽きるという人におすすめします。

(米原高校2年 田谷 彩音さん)

17 『ディズニー式 サービスの教え』 小松田 勝 著 宝島社新書

ディズニーランドで一番大切にされていることはゲストへの温かいサービスだ。すべての来園者がVIPで、誰でも安心して楽しめる環境が整えられている。またパーク内にはあまり自動販売機は設置されず、積極的にキャストと来園者がコミュニケーションをとれるように工夫されている。アトラクションに頼らないウォルトのサービスの教えが、世界中の人を惹きつける夢の国にしていることが、この本を読めばわかる。

(MIHO 美学院中等教育学校2年)

18 『塀の中の美容室』 桜井 美奈 著 双葉社

ここは刑務所の中の美容室。この美容室で、一般人の髪を切る1人の美容師、葉留のもとに髪を切りに来る6人の女性たちの、過去や辛い現状などが描かれている、感動につつまれた連作短編集です。なぜ彼女たちはこの美容室へ行くのか、葉留はどんな罪を犯したのか。短編集ですが、六つの話がバラバラではなく、どこかで繋がっているので読みやすく、一つ一つの話にとっても引き込まれる小説です。是非読んでみてください。

(玉川高校1年 長田 莉実さん)

19 『君は月夜に光り輝く』 佐野 徹夜 著

KADOKAWA／メディアワークス文庫

この本は、発光病という不治の病を患う1人の少女、渡良瀬まみずと、平凡な男子高校生で物語の主人公である岡田拓也とのラブストーリーです。過ぎていくうちに「生きる」とはなにか、答えの無いこの問いに悩みもがきながらも考え続けます。この二人が出会ったことで変わっていく、お互いの心情の変化なども読み取れるのがおもしろく、物語が進むにつれて、大切な人の死にどう向き合うべきなのかについても考えさせられる作品です。

(国際情報高校1年 塚本 るるさん)



20 『一度死んでみた』 澤本 嘉光／鹿目 けい子 著

幻冬舎文庫

私は同年代に『一度死んでみた』を読んでほしいです。この本の主人公は、お父さんが大嫌いな女子高校生で、口を聞こうともしていませんでした。しかし、ある日、父が死んだと聞いて、ちゃんと話してこなかったことにとっても後悔をします。そんな中、父は「一度」死んだだけだと知り、父を守るため決死の行動に出ます。果たして父は生き返るのか。コメディも詰まった親子愛の溢れる作品となっています。ぜひ、読んでみてください。

(米原高校2年 児玉 翔琉さん)

21 『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 著／河野 万里子 訳

新潮文庫

「ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばん大切なことは、目に見えない。」この言葉は、物語に出てくるキツネが言う言葉です。私は、この言葉の一番大切なこととは過程だと思います。物事に対して費やした時間こそが、大切な、心で見えるものではないかと思いました。また、大人になっていくにつれて表面的な価値しか見ないようになってしまった時に、本当に大切なことは何かを考えさせてくれる物語だと思います。

(国際情報高校1年 馬場 せつのさん)



22 『青い鳥』 重松 清 著 新潮社

この本では、国語の先生なのに、言葉がつかえてうまく話せない、中学の非常勤講師、村内先生を中心に短編の話がいくつか書かれています。この本では、「正しいこと」ではなく「大切なこと」を考えることをテーマにして、どの年代においても教材となりうる小説です。本書あとがきで、「初めてヒーローの登場する物語を書きました。」と作者は述べています。小さい頃に憧れるヒーローとは少し違うヒーローの話は是非読んでください。

(守山高校1年 太田 衣登葉さん)

23 『すべての神様の十月』 小路 幸也 著 PHP 文芸文庫

この本は、様々な神様を主役とする連作短篇集です。この作品に登場する神様達は皆個性豊かで、人間味のある方たちだらけです。そんな彼らには、それぞれに仕事があります。死ぬ人を見届ける死神、幸福すぎる人に取り憑きバランスを取る貧乏神など、本当にこんな神様達が実在するのではないかと思う程現実的で、しかしどこか神秘的な話になっています。最後まで心温まる話です。ぜひ手に取って読んでみて下さい。

(長浜北星高校2年 川畑 千優さん)

24 『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる 著 双葉社

学校に友達がいない主人公が、学校で出された「幸せとはなにか」を考える宿題を主軸に、手首に傷がある南さん、とても格好いいアバズレさん、一人暮らしのおばあちゃんなどと出会い、人生について考える、ちょっと不思議で心温まるお話。自分の人生は、どこかで思うように進まないかもしれない。でも、今の自分の選択が今後の人生を良い方向に進めることができる。そんな気持ちになれる作品です。

(国際情報高校2年 宮崎 奏良さん)

25 『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 著 双葉社

自分が死んだときに泣いてくれる友達はあるのだろうか。私はこの本を読んで、そんな感想を持ちました。ここ最近ではコロナ感染予防のために、外出や面会を自粛することが多く、友達ともあまり会っていません。そんなとき、私は、自分が今死んだら、誰も気付かないのではないかという不安におそわれます。物語の中で、人と関わろうとしない主人公は、ヒロインの死をきっかけに友達を作ります。二学期では友達を作ろう。そう思えた本でした。

(守山高校2年 真田 俊介さん)

26 『よるのばけもの』 住野 よる 著 双葉社

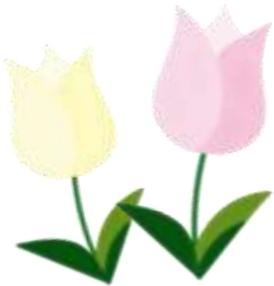
本当の自分って、どんなのでしょうか？友達と話すのが好きな自分？一人で本を読むことを幸せだと感じる自分？いじめを眺めてるだけの自分？夜の「化け物」の自分？この本は、夜になると化け物になってしまう少年が、夜の教室で、昼にいじめられているクラスメイトの少女と出会い、彼女に対しての認識を少しずつ変えてゆくお話です。リアリティがあり、読み終えた後に色々考えさせられる作品なので、ぜひ読んでみてください。

(東大津高校2年 神田 大渡さん)

27 『人間失格』 太宰 治 著 集英社

「太宰治の人生は本当に幸せだったのだろうか。」とこの本を初めて読み終えたとき、つい口に出してしまいました。ベストセラー作品をいくつも産み出して、著者として一流な太宰治の一人の人間としての苦難や葛藤、人としてのあり方が書かれている作品です。太宰治にとっての幸せは何かを何度も何度も読み返しながらかえてみてください。この答えが分かったときには、人として大きな成長を遂げているはずです。

(虎姫高校1年 野崎 晃大さん)



28 『女生徒』 太宰 治 著 KADOKAWA/角川文庫

なんとなく手に取ったこの本は、太宰治のファンである女性が彼に送った1冊の日記がもとになったと言われています。この本は短い場面がいくつも登場しますが、何度も変わるのは場面だけではありません。それは、主人公である年頃の女性の不安定な心情です。自分や身の周りのことに対して、喜びやいらだちなどの感情が交互に何度も表れます。だから、私たち女子高生にとっては、とても共感できる本であるだろうと思っています。

(大津高校3年)

29 『ツナグ』 辻村 深月 著 新潮社

本の題名になっている「ツナグ」は、本中では一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれる仲介人「使者(ツナグ)」として登場します。生者も死者も、たった1人と1度しか会うことができないなかで、自分なら誰に会いたいと思うだろうか、そして、自分が死んだら誰かが会いたいと思ってくれるだろうかと考えさせられました。

(国際情報高校2年 西村 美優さん)



30 『目を見て話せない』 似鳥 鶏 著 KADOKAWA

この本は、コミュ障な大学生の主人公が、身近な謎を解決していくミステリーです。コミュ障の特徴である、まわりの空気を読みすぎる、相手の反応を過剰に気にしてしまうなどの心理的な描写がしっかりされているところが面白いです。コミュ障あるあるがいっぱいあって、コミュ障の人や人見知りする人は、すごく共感できる本だと思います。コミュ障にも色々なタイプがあり、人との関わり方を学ぶことのできる作品です。

(米原高校2年)

31 『あやうく一生懸命生きるところだった』 ハ・ワン 著/岡崎 暢子 訳 ダイヤモンド社

私はこんなに頑張っている。でも自分より大変な人はもっといる、もっと頑張らないと。そんな風に日々を過ごす私達に、頑張りすぎてない?その頑張りには本当に自分の本心?と問いかけてくれる本。結果主義のこの社会で、頑張る事に疲れた人、誰かにこの頑張りや褒めて欲しい、そんな人たちにぜひ読んでもらいたいそんな1冊です。

(長浜北星高校3年 藤本 さつきさん)

32 『あの夏の正解』 早見 和真 著 新潮社

「夏の甲子園中止」この一言でたくさんの球児の夢と目標がなくなった2020年の夏。甲子園がないのに野球を続ける意味があるのか自問自答をし、そんな彼らの姿を見て、どう声をかけたらいいか迷い悩む監督。悩みに悩んで導いた答えの先に、何があって何を得るのか…。世界中を脅かす新型コロナウイルスによるパンデミックの中、甲子園のない夏にもがき苦しむ「あの夏」の物語。

(草津高校2年 高岸 あのんさん)

33 『それぞれの名前』 春間 美幸 著 講談社

「みんな、自分の下の名前って、気にならない？」この問いかけから物語は始まります。容姿も名前もそっくりで、いつも間違えられてしまう双子のユカとチカ、女の子っぽい自分の名前がコンプレックスなノゾミなど、6人の登場人物が、それぞれの名前の由来を知り、かえがえのないたった一つの自分の名前の大切さを教えてくれる話です。読んだらきっとあなたも自分の名前が更に好きになることでしょう。

(米原高校1年 西野 美裕さん)

34 『パラドックス 13』 東野 圭吾 著 毎日新聞社

“P-13 現象”に襲われた地球。その先には人の消えた世界が広がっていた。世にも奇妙なこの地球に取り残された13人の我々。論理的な思考では解決できないハプニングに現実味がおびない。地球の全てを破壊するかのごとく異常気象が襲いかかるにつれ、登場人物の本性が暴かれていく。思いもよらない展開にハラハラドキドキなストーリー。ラストシーンのセリフで皆が発狂まぢがいなし!!最後まで見逃すな!

(虎姫高校1年 田中 美優さん)



35 『マスカレード・ホテル』 東野 圭吾 著 集英社

「世の中の人々は皆仮面をかぶっている。」この作品の言葉である。僕はこの言葉を読んだときハッとした。確かに今のこの世の中で、会社、学校、地域の集まりといった様々な人の集まる場所で、自分の本音をさらけ出している人は少ないのではないだろうかと思う。大抵の人は仮面をかぶり、自らが課したキャラクターを演じているのではないだろうか。そういう現実の一面と関連している。この作品は、社会というものが少し見える作品だ。

(米原高校2年 木下 翔悟さん)

36 『人魚の眠る家』 東野 圭吾 著 幻冬舎

「教えてください。娘を殺したのは私ですか。」これは脳死した娘に包丁を向け、母が放った言葉です。数年前、不慮の事故で脳死判決を受けたのは、まだ幼い娘でした。自分の娘は生きているのか、死んでいるのか。臓器提供をすべきか、延命すべきか。過酷な運命を背負った母の葛藤と苦悩が、卓越された文で描かれています。現在の日本の法律についても深く考えさせられるお話です。大切な人がいる、全ての人に読んでもらいたいです。

(守山高校1年 黒田 結衣さん)

37 『ラプラスの魔女』 東野 圭吾 著 KADOKAWA／角川文庫

あなたは、未来が予測できるなら、もしそんな能力を手に入れたらどんなことができるだろうと考えたことがあるだろうか。物語の主人公が出会ったのは、未来を正確に予測できる不思議な少女、円華。彼女の秘密を探るうちに国家ぐるみの恐ろしい事実が明らかになる…。この小説には、実在する理論などがたくさん盛り込まれており、とてもリアルで引き込まれる。今までとは一味違う新感覚のミステリーなので、ぜひ読んでみてほしい。

(守山高校2年 新原 菜摘さん)

38 『生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉』

日野原 重明 著 幻冬舎

この本は、医師の日野原重明先生が、亡くなる前に書かれた本だ。「自分らしく生きていく秘訣はありますか。」や「最愛の人が病気になった時なんと声をかければいいのか。」などの質問に先生が答える。先生の言葉と自分の人生を重ね合わせると、「あの時こうしとけばよかった」という後悔、逆に「次からはこうしよう」という参考にもなる。また、105歳という人生経験豊富な先生の答えだからこそ、心に響く言葉に注目してほしい。

(米原高校1年 上田 萌心さん)

39 『魔女の家 エレンの日記』 ふみー 原作／影崎 由那 作画 KADOKAWA

私が紹介する『魔女の家 エレンの日記』と言う小説は、有名フリーホラーゲーム『魔女の家』の前日譚にあたるストーリーとなっています。ゲーム内のストーリーの補足的なものではあるので、ゲームを知っている人は絶対に楽しめますし、知らない人でも巧みな言葉使いや展開に惹かれると思います。不幸だった主人公に転機が訪れるというよくある展開ですが、みんながハッピーなエンドではないです。悪の活躍を見たい人におすすめです。

(湖南農業高校2年)

40 『老人と海』 ヘミングウェイ 著 新潮文庫

何に憧れ生きるのか。これは人間の内にある情熱を奮い立たせる、剛勇な作品だ。老漁夫サンチャゴは、獲物を求め遠い海へ出る。そこには度重なる苦難が待っていた。情景描写が多く、迫力ある漁の様子が鮮明に浮かんでくる。その中に彼の普遍的で熱い信念が伺えると共に、作者が自身を主人公に投影している様にも感じられる。最後にサンチャゴは何を得て、何を見たのか。臨場感あふれる描写と1人の老人に感極まる。

(虎姫高校1年 中川 唄さん)

41 『ボッコちゃん』 星 新一 著 新潮社

話の幕の閉じ方には、大きく分けて、ハッピーなものとおバッドなもの二つがある。しかしそのどちらでもないのが、この作品だ。一つの話が短い分、終わりのオチが大きいのであまり深堀りは出来ないが、一つ『鏡』という話を紹介しよう。話は男が鏡から悪魔を捕らえる事から始まり、妻と共に悪魔をいじめる。その後、悪魔を逃してしまい…。という話だ。ショートショートの名手、星新一が描くユーモアの世界にあなたも読みほれるはずだ。

(虎姫高校1年 廣畑 亮太さん)

42 『竜とそばかすの姫』 細田 守 著 KADOKAWA／角川文庫

この物語の主人公、鈴は、自分に自信が持てず、心を閉ざしている女子高校生ですが、インターネット上の超巨大仮想空間「U」に「ベル」として参加すると、堂々と歌い、自分の意志を貫く力強い女性となります。この印象的なギャップと、鈴が「竜」と出逢い、助けようとするうちに現実世界にも心を開いていく様子は、きっとあなたの心も震わせるでしょう。映画の原作でもありますが、映画を観る前でも後でも楽しめる一冊です。

(大津高校1年)



43 『AIに心は宿るのか』 松原 仁 著 集英社インターナショナル新書

みなさんは、AIに興味はありますか。AIは心がないもので将来人間を支配するものだと、AIを消極的に捉える人も多いと思います。一方で、AIは既に将棋や囲碁などで活用されています。AI棋士は、今となっては人間の棋士にとっては敵わない相手なのです。将来、AIと人間の区別はなくなっていくかもしれません。その中、人間とAIはどう共存していくのでしょうか。考えるヒントは、この本の中に。

(守山高校1年 奥野 創大さん)

44 『15歳のテロリスト』 松村 涼哉 著

KADOKAWA／メディアワークス文庫

この本は少年犯罪について深く触れられたお話で、1日で読み切ってしまうほど話に入り込める素敵な物語です。話では少年法や誹謗中傷に関しての話題に触れていたり、家族が殺された被害者側家族と、身内が少年犯罪を起こし世間から非難される加害者側家族、それぞれの悲しみや苦しみが書かれているため、どちらにも共感でき、現実とも同じような誹謗中傷についても考え直す機会となる作品です。

(大津高校1年 桑本 愛紅さん)

45 『銀河鉄道之夜』 宮沢 賢治 著 明治図書

「ほんとうのさいわいは一体なんだろう。」これは二人の少年が銀河の旅で本当の幸せを探す物語だ。貧しい少年、ジョバンニはお祭の夜、気がつく宇宙を巡る不思議な鉄道に乗っていた。そしてそこには彼の親友、カムパネルラがいた。二人はさまざまな人と出会いながら宇宙を旅する。そしてその旅が終わるころ明らかになる衝撃の事実。あたたかく、切ない二人の友情に胸が締めつけられる一冊だ。ぜひ手に取ってほしい。

(国際情報高校1年 三田 真羽音さん)

46 『余命3000文字』 村崎 羯諦 著 小学館

「あなたの余命はあと3000文字きっかりです」この衝撃の一言からはじまります。物語が終わるまでをカウントし、わずか3000文字の中で次々と展開が変化していくのが面白い本です。その他にも、短編集ですが、どれも一文目から気になって、とても読みごたえがあります。短い文章で読者を物語に引き込ませる巧みな言葉選びに圧倒されます。通学や朝読書などのすき間時間にぴったりです。

(米原高校1年 伊藤 莉子さん)

47 『フェリックスとゼルダ』 モーリス・グライツマン 著／原田 勝 訳

あすなろ書房

この物語の舞台は、第二次世界大戦中のポーランドです。当時はヒトラーに占領され、ユダヤ人が大虐殺されました。この本の主人公は、そんな境遇から逃れようとするユダヤ人の少年です。この本は最初に「身の上が語られたことのないすべての子ども達に捧ぐ」という言葉で始まります。この言葉は、たくさんの人の想いを背負った重い一言だと思います。私達は知らない、壮絶な世界と想いを感じながらこの本を読んでください。

(国際情報高校1年 竹井 七葉さん)

48 『カラフル』 森 絵都 著 文藝春秋

生前に大きなあやまちを犯して死に、前世の記憶をなくした主人公、ぼく。そのぼくが、自殺をした少年の体を借りて、自分が犯したあやまちを探していく話です。リアルな設定で、重くなるような展開もありますが、ファンタジー要素や機知に富んだ文章のおかげで、とても読みやすいです。この本がきっかけで、自分自身の可能性に気づけた気がします。ぜひ読んでください。

(近江兄弟社高校2年 岡本 颯斗さん)

49 『友達ゼロで不登校だった僕が世界一ハッピーな高校生になれたわけ』

よしあき 著 KADOKAWA

この本の筆者である「よしあき」は、幼少期にクラスのみんなからいじめられて不登校になり、家庭内暴力や自殺未遂までも起こした。人生どん底だったが、フリースクールでの恩師との出会いや、姉の影響で原宿に出会い、自分らしさというものを見つけ、好きがどんどん自信につながっていきます。高校に入学し初めて出来た友達や、支えてくれた家族のおかげで今の自分がある。人という存在がどれだけ大きいかわかる本です。

(国際情報高校1年 大野 心愛さん)

50 『ナナメの夕暮れ』 若林 正恭 著 文藝春秋

人気お笑いコンビ「オードリー」のツッコミである若林正恭氏の、人見知りならではの視点での世界のものごとの捉え方を楽しく読める本。本人はとてもネガティブで、あまり人と交流するのが好きではないようで、ファンへの辛辣なツッコミや、先輩芸人への面白い返しなどの、お笑い芸人が好きな人やネガティブな人はとても楽しめるエッセイだ。はじめに にもあるように、毎日 が楽しいという人にはあまりおススメはできない。

(国際情報高校2年 浦田 竣也さん)

